

令和4年度 学校経営方針 学校説明1・2年生用


練馬区立大泉北小学校
校長 松井 貴子

1 はじめに

交通やICTが発達し、人々の交流が盛んになり物流が便利で豊かな社会になってきている一方、新型コロナウイルス感染症拡散防止のような事態、また戦争などにより世界規模での対応を求められ、世界的に激動の時代の到来を感じます。

そのような社会状況の中、学校では、児童一人一台タブレット端末の利活用が本格化し、令和3年度から積み重ねた経験やデータを絶えず生かし、本年度も問題解決的に教育活動を前進していきます。うまくいかないこと、ピンチはチャンスです。そして、変革の時代をたくましく生き抜く子供たちを育てる営みは、私たち大人の希望でもあります。「日々、挑戦。」そして、「日々、感謝。」互いのよさや強みを生かし、切磋琢磨し、よりよい未来を創造していきたいと思えます。

経営理念は、「夢や目標をもち、困難を乗り越える力を備えた、笑顔で挑戦する子供たちを育成する学校を創造する。」です。

開校49年の歴史の長きに渡り培われてきた強みを生かし、子供一人一人がよさを発揮できるように  「元気に挨拶、笑顔で挑戦、夢の広がる大北小」の実現を目指します。そのためには、「チーム大北小」として教職員が多重構造の鍋のようにそれぞれの知恵を結集し、家庭・地域の方々、更に外部の方々のお力添えをいただきながら、不易と流行、そして緊急事態へは柔軟に対応し、一日一日の教育活動に工夫して取り組むことで充実を図っていきます。

また、児童、保護者、地域、そして、私たち教職員など本校に関わる全ての人にとって「元氣な挨拶」「笑顔で挑戦」をコンセプトに、学校の教育活動を展開していきたいです。4者全てが一体となって教育活動を進めることで、これまで以上に大泉北小学校が信頼され、それぞれにとって、誇りに思える学校となるようにしたいと心から思っています。

学校は、学ぶところです。学習の最終目標は、**自分の力を自他のために、社会のために役にたてること**です。目の前の児童が、十年二十年先、社会で活躍することができる力を身に付けるために、今、学校でできること、すべきことは何かを常に考えることが重要です。そして、児童に未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成する必要があると考えます。

そのためには「言語」による思考が重要です。学校では、一つ一つの言葉を大切に、言語能力の向上を図ります。言葉は児童の学習活動を支える重要な役割を果たすものであり、「言葉の力」は全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となるものです。

人権尊重教育の視点からも、学校生活全体の言語環境を整え、児童一人一人が「言葉の力」を着実に身に付けることができるように、意図的・計画的に指導して

いきます。特別の教科 道徳を柱に、人権感覚を磨き、人権教育の視点を意識した学習指導や生活指導を充実させ、一人一人に居場所のある温かな学級・学年・学校経営をしていきます。

「当たり前のことを当たり前にする」とはよく耳にする言葉ですが、価値付け、実際継続していくことは容易なことではありません。この二年間コロナ禍で、行事や運動、音楽等の活動が制限されてきました。スタートカリキュラムを検討する懇談会も難しい状況でしたが、令和3年10月に大泉北小学校が会場となり幼保小連携教育を工夫して実施しました。幼稚園や保育園の先生方に、成長した1年生の姿と一人一台タブレット端末を活用した授業を参観してもらいました。学校現場の変化と子供たちの意欲的に新しい学習道具を活用した授業に感心していらっしゃいました。本年度も好奇心あふれる低学年児童の挑戦意欲を大事にして、心も体も健康で元気いっぱいの子供の育成をしていきたいと思えます。

2 教育目標の共有

学校経営の目的は、教育目標の実現にあります。

社会の変化に主体的に対応し、めあてに向かって意欲的に学び、考え、問題解決的に行動、知・徳・体の調和のとれた豊かな人間性をもった児童を育成する。

- | | | |
|----------------|-------|------------------------------------|
| 「よく考える子ども」 | 【知】 | 自分の考えをもち、挑戦意欲が高い。 |
| 「心の豊かな子ども」 | 【徳】 | 人を思いやり、豊かなコミュニケーションにより、すすんで仲良く活動する |
| 「みんなと力合わせる子ども」 | 【知・徳】 | 協働して問題解決できる。 |
| 「健康で根気強い子ども」 | 【体】 | 命を大事にし、健康な心と体をつくる。 |

学校教育目標の達成に向けて、各学年で発達段階に応じた目標を立て、学級では更に子供たちと学級目標を作成します。子供たち一人一人もまた具体的に自分のめあてを立てます。目標やめあては、期間を決めて振り返り、成果と課題を確認します。そして、修正したり改善を図ったりすることを通して自己を高めていくことができます。それが自己の生き方について学ぶ大切なキャリア教育となります。ですから「目標」や「めあて」を立てることは最も大切な勉強の一つです。

令和3年度・4年度の入学式に「ゲー、チョキ、パー」の力についてお話をしました。その中の「自分の考えをしっかりともち、めあてを決めてグッと頑張るゲーの力」がぐんぐんと伸びるように、様々な場面での子供たちの「夢」につながる目標を応援していただけるようお願いします。

「何事にも目標やめあてをもって取り組む」



3 児童の資質・能力を伸ばす学校

<児童の資質・能力の3つの柱>

○学びに向かう力、人間性等⇒主体的に学習に取り組む態度

「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」

○思考力・判断力・表現力等

「理解していること・できることをどう使うか」

○知識及び技能

「何を理解しているか 何ができるか」



「言葉の力」を付ける グラントデザイン参照

「言葉の力」とは、「情報を正確に理解した上で相手の表現の意図や背景を推論し、根拠を挙げて自分の考えを述べ、話し合っ解決する力」です。

1 身に付けさせたい力を明確にした授業づくりの推進

○学習課題と学習評価→児童自身が**自分は何を学んでいるのか、言葉で言える。**

2 読書活動の充実 「豊かな疑似体験」「心の世界を広げる」

○人権尊重教育の持続・発展 → 想像力を養う

○必要な情報の収集ができる ← 多量な情報が溢れる時代だからこそ、自分で獲得することが重要である。

3 読解力の向上 「豊かな知識による想像力と判断力」

○情報活用能力に係わる指導

・新聞等活用の授業等・図鑑や辞書等さまざまな本の活用・語彙を増やす言語指導



コミュニケーション能力の向上 「言葉は思考」

・「言葉でつながる」「人とつながる」「心がつながる」

・新しく教科となった小学校高学年の外国語及び3・4年生からの外国語活動

5 基礎・基本の学力向上「論理的思考を育むために」

・学習目標をしっかりとつ…学力テスト等を効果的に活用する学び方を身に付ける

・学習習慣の確立 …あおぞら教室の学び方の応用
…一人一人の児童が**学習計画を立てられる**ようにする

・家庭学習の充実 …「改訂大北小スタンダード」の活用

・個に応じたきめ細かな指導

低学年からの少人数算数指導 算数得点アップウィークの取組

ICTを活かした繰り返し学習



・個別最適な学びの充実 特別支援教育の理解と推進「あおぞらたより」の活用

6 特色の持続発展 →習得・活用・探究的な学びの過程のサイクルを回す

大泉北小学校の教育を発展させ、地域のよさ、東京のよさ、日本のよさを伝え

られる自分に自信をもてる子供を育てます。

◎キャリア教育の推進

- ・「人間関係形成」「課題対応能力」「将来設計能力」「意思決定能力」の視点から夢や目標をもって学び続ける意欲の醸成
- ・自然体験や読書体験、ICT教育を活用した学びにより、自己の生き方を考え、深めることができる態度の育成



- ・小中一貫教育で大北中グループ「目指す15歳の取組」

○人権教育を基盤とした言語環境の整備と校内美化

- ・自分も他人も大切にできる態度の育成
「傾聴」の姿勢を身に付け、話し合っ解決できる。
互いのよさを認め、多様性を力とする。



- ・自分の物も公共の物も大事に使い、感謝の気持ちを大切にできる。



○健康教育の推進「粘り強く挑戦する心と体の育成」→自尊感情の構築

- ・保健指導・保健学習により自分の健康に関心をもち、生活習慣の定着を図る。
規則正しい生活リズムと適切な運動習慣→心地よい睡眠→学習意欲
- ・食育の充実 毎日の給食指導 食物アレルギー対応等についての徹底
- ・体力向上 体育授業や体育的な活動の充実
新体力テスト等を効果的に活用する



7 生活指導と学習規律

- ・靴揃えで心のゆとり ←すばらしい取り組みの継続
- ・学習準備、片付けで心の切り替え 整理・整頓 学びに向かう姿勢をつくる
- ・みんなで学ぶ学習環境(スッキリ、クッキリ、ハッキリ)ユニバーサルデザイン
- ・ノート整理で頭(考え)の整理

◎いじめの未然防止対策・早期発見及び丁寧な対応

- ・日常的な組織体制での児童観察
- ・年3回の児童いじめ関連アンケートと早期発見による指導
- ・SCや心のふれあい相談員、SSWによる面談の充実
- ・本年度より専科教員による一部副担任制導入
- ・いじめ対策推進委員会による検討及び学校内外組織体制で対応

4 安全・安心、温かな心がかよう学校づくり

◆ さわやかな挨拶が溢れる学校にしたいと思います。一つ一つの言葉を大切に、子供たちへのプラスワンの温かな言葉掛けをしていきます。感謝の言葉が響き合う関係づくりに御協力よろしくお願ひいたします。

◆ 内容にもよりますが、担任をはじめ副担任や養護教諭、主幹教諭、副校長、校長、場合によっては、特別支援教室専門員、スクールカウンセラー、心のふれあい相談員等への相談を通して、風通しのよい学校でありたいと強く思います。お子様のことで不安なことがございましたら、学校で様々な人に相談することで、現状が打破される場合が多いです。何か気になることがございましたら、お気軽にご連絡ください。お待ちしております。

◆ 危機管理の意識を常に「自分の事」としてもつこと

健康の急変や教育活動中のけがや事故は、迅速な対応が重要となりますので、連絡が必ずとれるように複数の連絡先をお知らせいただくと共に、連絡先の変更がございましたら速やかに担任の方へご連絡をお願いします。

また、友達間でのトラブルや事故などが起きた場合、加害者、被害者、関係者には事故の内容や経緯を丁寧に伝え、保護者間のコミュニケーションが円滑にいくよう橋渡しをできる限りしたいと思います。その際、お互いさまの気持ちを持ち、我が子だけでなくすべての子供の教育のお手本として保護者の皆様にもご協力いただきたいと存じます。よろしくをお願いします。

学校外でも、自然災害、交通事故、情報モラルに関わる事件が日々起きています。「**自分の身は自分で守る**」危機意識の高い児童の育成に努めていけるように、状況の理解や行動について具体的に想像できるように安全教育を計画的に実施していきます。危険回避の方法を教えることも小学校段階では重要です。特に、子供たちはデジタルネイティブ（生まれた時からインターネットが身近にある）と言われ、よい点は、インターネットを通じて人と知り合うことに抵抗がないことです。しかし、SNSでのいじめ問題や不審者等についての関わりの危険はより一層対応が難しくなっているのも事実です。情報モラル教育は早い段階から、学校と共にご家庭でも御指導をしていただくとともに、依存症などに関わる健康状態を含めて、管理をよろしくをお願いします。

5 開かれた学校づくり

学校便りや学年便りをはじめ、ホームページや学校配信メール等で積極的に情報発信をして学校の様子をお知らせします。学校公開も状況に応じて、形を工夫しながら実施していきます。お子様のことで気になることは遠慮せずに御相談いただき、必要な個人面談などは随時行いたいと思います。お子様の成長に向けて、担任や副担任、スクールカウンセラー等と話し合いの中でよりよい関係づくりをしていただければ幸いです。

保護者、地域、関係諸機関、教育関係の協力団体等との「連携」を大切に多様な教育の充実を図ってまいります。

6 終わりに

子供たちや教職員によく話すのですが、自己分析の心理学モデルの一つに「ジョハリの窓」という考え方があります。「自分から見て知っている自分」「他人から見て知っている自分」「自分も他人も知っている自分」「自分も他人からもまだ知られてない、未知の自分」の4つの窓です。学校では、協働的な学びの場面がたくさんあり、他人から見た自分を知る機会に恵まれています。三人以上の他者に、似たような行動や内容で褒められたときは「ありがとうございます。」と言って、自分の自信にするとよいと話しています。保護者の皆様も子供たちのよい面を先生方とたくさん共有して、大いに褒めて認めていただくようお願いします。本年度も、自分に自信を持ち、真に自己肯定感の高い子供たちを育ててまいります。

「元気に挨拶、笑顔で挑戦」教職員一同、健康には十分に留意し、常にはつらつと
していきたいと思ひます。学校教育への御理解と御協力よろしくお願ひします。